



2016年10月13日

報道関係各位

2016年度リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ) 「プロジェクト未来」研究助成の採択者決定について

公益財団法人 日本対がん協会
会長 垣添 忠生

謹啓

平素は小協会の活動にご理解をいただき、ありがとうございます。

小協会が、がんサバイバーや家族、支援者の方々と一緒に活動しています、がん征圧・患者支援イベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)」に寄せられた寄付をもとにした表題の研究助成が、10月6日、別紙のとおり決定しましたのでお知らせいたします。

謹白

RFLJ「プロジェクト未来」研究助成とは

公益財団法人日本対がん協会(会長・垣添忠生)は、RFLJ に寄せられる寄付を基に、がん研究を助成するRFLJ「プロジェクト未来」研究助成を2012年に設けました。この助成は画期的な治療法につながると期待できる基礎的な研究、そうした成果を臨床につなげる研究や患者のQOLの向上などを患者側から支援しようというものです。日本の優れた研究をいち早く患者のもとに届けるため、この助成金を使って欲しいというRFLJ参加者である、患者・家族・支援者たちの切なる願いが込められています。

【助成金】

- ・総額: 1件あたり最高300万円/年(総額1750万円以内)
- ・対象: がんに関する基礎研究・臨床研究、がんの支持療法、社会面に関する研究
- ・選考: 日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床癌腫瘍学会の協力のもと、同会員、RFLJボランティア実行委員会代表らで構成する審査委員会で審査する。

「リレー・フォー・ライフ(RFL)」とは

RFLは1985年にアメリカ対がん協会(ACS)の医師が始めたイベントです。この医師はマラソンが得意だったことから、がん患者さんの生きる勇気をたたえ、支援するために何かできないかと考え「がん患者は24時間、がんと闘っている」をメッセージにグラウンドを24時間走り続け、がん患者支援のための資金を集めるため、トラックを1周する毎に寄付を募りました。

日本では日本対がん協会がACSからライセンス認可を受け、2006年に茨城県つくば市で試行し、2007年から本格的に開催しています。その後は年々増え、今年は50カ所での開催が予定されています。

がん征圧・患者支援のための寄付を募るのが主目的ですが、患者・家族・支援者・医療者の方々の交流の場にもなっています。

この件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

■公益財団法人 日本対がん協会

リレー・フォー・ライフ・ジャパンチーム 担当:中島 (Tel:03-5218-4771)

リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)「プロジェクト未来」研究助成金 2016 年度採択者

分野Ⅰ(基礎研究・臨床研究)

以下 11 名 合計 1300 万円 (五十音順、敬称略)

申請者名	所属	申請テーマ	助成金額
縣 保年 (アカタ ヤストシ)	滋賀医科大学 生化学・分子生物学講座	IPS細胞技術とゲノム編集を用いた効率のよいがん抗原特異的キラーT細胞の再生	100万円
大木 理恵子 (オオキ リエコ)	国立がん研究センター研究所 希少がん研究分野	希少がんである神経内分泌腫瘍のがん抑制遺伝子PHLDA3の遺伝子診断による新しい予後・治療薬選択法開発～神経内分泌腫瘍の個別化医療を目指して～	100万円
大塚 基之 (オツカ モトユキ)	東京大学医学部附属病院 消化器内科	未来の癌予防法の確立をめざした加齢に伴う消化器癌の発生リスク増大の分子機構の解明	100万円
河田 健二 (カワタ ケンジ)	京都大学 消化管外科	骨髄由来細胞をターゲットした新規大腸癌治療法の確立	100万円
神奈木 真理 (カナギ マリ)	東京医科歯科大学 免疫治療学分野	成人T細胞白血病の発症予防ワクチンの開発	100万円
小島 研介 (コジマ ケンスケ)	佐賀大学医学部 血液・呼吸器・腫瘍内科	白血病幹細胞の薬剤耐性、腫瘍内不均一性を打破し、二次発がん・再発をひきおこさない新たな分子標的治療戦略の臨床応用を目指した研究	100万円
関戸 好孝 (セキト ヨシタカ)	愛知県がんセンター研究所 分子腫瘍学部	悪性中皮腫のがん抑制遺伝子の変異の特徴に基づく新規分子標的の探索	100万円
中西 真 (ナカニシ マコト)	東京大学医科学研究所 癌・細胞増殖部門 癌防御シグナル分野	細胞老化を標的とした革新的がん治療法・予防法の開発	200万円
長山 聡 (ナガヤマ サトシ)	がん研有明病院 大腸外科およびTR支援部	腸内細菌叢の変化による大腸癌発生のメカニズムの解明	100万円
浜本 隆二 (ハマモト リュウジ)	国立がん研究センター研究所 がん分子修飾制御学分野	ヒストンメチル化関連酵素を標的とした大腸がん幹細胞に対する新規分子標的薬の開発	200万円
村松 正道 (ムラマツマサミチ)	金沢大学 医薬保健研究域医学系 分子遺伝学	がん細胞発生・悪性転化における変異源酵素APOBECの役割の検討	100万円

分野Ⅱ(がんの支持療法、社会面に関する研究)

以下 9 名 合計 450 万円 (五十音順、敬称略)

申請者名	所属	申請テーマ	助成金額
明智 龍男 (アケチ タツオ)	名古屋市立大学 精神・認知・行動医学分野	小児がん患者・家族に対する新たなサポートシステムおよびケア方法の開発研究	50万円
遠藤 源樹 (エンドウ モトキ)	東京女子医科大学 衛生学 公衆衛生学第二講座	中小企業における、がんサバイバーの病休・復職等の実態調査と復職支援への応用	50万円
小澤 美和 (オサワ ミワ)	聖路加国際病院 小児科	一般総合病院の機能を活かした小児がん経験者の人間ドックシステムによる晩期合併症とQOLの生涯コホート調査と自立的な健康管理能力の育成	50万円
近藤 俊輔 (コトウジュンスケ)	国立がん研究センター 中央病院 先端医療科	がん患者における労働生産性変化の実態調査(プレゼンティズム/アブセンティズムの解析から)	50万円
櫻木 範明 (サクラギ ノアキ)	北海道大学医学部 産婦人科、(一社)ピーキャフ・PCAF	子宮頸がん検診受診率向上へ向けての地域住民および地方自治体に対する自己採取 HPV 検査の知識普及活動	50万円
白石 憲史郎 (シライケンジロウ)	帝京大学医学部 放射線科	乳がんサバイバーの治療後二次発癌発症の調査研究	50万円
関 由起子 (セキ ユキコ)	埼玉大学 教育学部	がんを患う高校生への学校教育支援:大学生による学習支援ボランティアの意義と効果について	50万円
全田 貞幹 (センダ サダモト)	国立がん研究センター 東病院 放射線治療科	放射線皮膚炎における Blinded objective grading system の構築を含む客観的評価方法確立に関する研究	50万円
古井 辰郎 (フルイ タツロウ)	岐阜大学大学院医学系研究科 産科婦人科学医学部附属病院がんセンター	小児・思春期・若年成人がん患者の妊孕性温存に関する医療連携構築を目的とした社会システム作り(啓発・人材育成、各種資料作成、日本版 Oncofertility Consortium 構築とナビゲータ制度の提案)	50万円